

特集
ホームヘルス機器

「吸うサプリ」を入り口商品に
「DENBA Health」のユーザー拡大へ

健康機器メーカーのD
NBA JAPAN
デンバジャパン、本社
Health(デンバへ
ルス)のユーザー拡大
を目指している。

特許技術を用いたヘルスケアに
応用した微弱電位発生機

独自技術を応用
同社の主力製品である「DENBA Health」は、食品の鮮度保持が、独自の技術により、破損するヒット商品となっている。

最大の特徴は、独自の

ある吸着剤「リメント」に「DENBA Mist（デバミスト）」戦略的な「入口商品」として位置づけ、ブランド認知の向上を図ること

最終的にE



「接吻型」とは異なり、マットを中心に半径約1・5mの空間に電場を発生させる。人体に含まれる水分を共振させることでケアを行う仕組みととなっている。

土庫中や就寝中などの

「DENBA Mist
(デンバミスト)」

日常生活において、「無意識に、長時間連続して

対談 超高齢社会で日本が目指すべきヘルスケアの未来

白寿生科学研究所

原 浩之
社長

衆議院議員

森下千里氏

日本は世界に類を見ない超高齢社会を迎えている。医療費の増大や、現役世代の負担増そして「2040年問題」。山積する課題に
対し、私たちはどう向き合べきか。電位治
療器「ヘルストロ」を通して長年々の健
康に寄り添ってきた白寿科学研究所の原浩
之社長と、被災地での活動を続ける国政の場で
環境・厚生労働行政に携わる森下千早議院
議員が、日本のヘルスケアの未来について語
り合った。

追りくる「2040年問題」

このままでは現役世代の
社会保障負担は限界を超
えてしまいます。

「孤独」は最大の健康リスク

原 ます直視しなければならぬのは、人口動態の急激な変化です。団塊ジュニア世代が高齢者になる2040年には、高齢人口が現在より約100万人も減少すると予測されています。一方高齢者は増え続ける。「誰かが損をする」ので

森下 私も厚生労働委員会での議論を通じて、現世代への負担がこれに増えることへの危機感を強く抱いています。かといって、高齢者の方々の暮らしを切り捨てるわけにはいきません。

森下 私は宮城県に
 んでいます。震災後
 仮設住宅などで、高
 の「孤立」や「独居」
 問題を目の当たりにし
 きました。人とのつな
 がが希薄になると、気
 が低下し、フレイル（
 弱）があつという間に

使用できる」という同商
品の特徴が、現代人のラ
イフスタイルに合致した
としている。

23年には、アバホテルと共同で、「DENBA Health」を使った宿泊プラン「グッドスリーププラン」を開発した。

が25年11月に投入したのがDENBA Miss「バコ」。同商品は、電子タバコの技術を応用し、GABAや高麗人參、ヒタマシシロなどの機能性成分をミスト化して摂取するいわば「吸うサプリメント」となっている。

同商品の価格は税込4940円と手に取りやすく、30〜50代の「リカバリー」を求める層をターゲットに据えている。

「ニコチンやタールは含

（公財）日本少年野球連盟
（以下ボイズリーグ、事務局大阪府）への、日本トリム
による大規模買収が、全国の少

大宮肇会長

バリ五輪体操の金メダリストの岡慎之助選手を始めとしたトップアスリートが愛用するなど、多方面で利用実績が生まれている。1台36万、90万円という高価格帯ながら、レンタルで「体感」してもう手法により、着実にファンが広がってきているという。

まず、漢方由来成分などを独自配合している。「仕事中の集中力維持」や「リラクスタイム」など、シーンに合わせた手軽なセルフケアを提案している。

同社は、「DENBA Mist」をECや美容室、整体院などで販売する計画を通じて、これら

年野球チームへと広がりを見
せている。日本トリアムは、
ボーイフリークに少年野球チ
ームへの電力を来季、整米館の
提供を行ってゐる。すでに、
ボーイフリークに加盟する全
国約100チームのうち、半
数で、整米館のプラチマを施
した。日本トリアムは、ほ
められた葉の協賛が、野球
のフリー環境の維持に役立つ

未開拓層へのアプローチ

まで接点がなかった層に
対して「DENBA」プ
ランドの認知を浸透させ
ることを狙いとしてい
る。

全員に平等にチャンスが
ポイズリーグは、中学硬
式野球の団体としては唯一、

私たちも愛用、究極の身体ケア

パリ五輪体操金メダルの岡慎之助選手などにもアスリートが愛用

岡慎之助選手
（女子）

岡慎之助選手
（男子）

手軽な商品を通じて健康意識を高めたユーザーに対し、より深いケアを可能にする「DENBA Health 1st」への興味を喚起する目的だという。

公益財団として国から認可されている。内閣府の管轄下の全国組織として、「野球を通じた、青少年の健全な育成」を目的とする活動を展開している。

ボーイズリーグの大量學会

長は野球の特性について「野球には独自の教育的価値がある

森千恵民

るというデータ
もあります。W
HO（世界保健
機関）の憲章で
も、健康とは単
に病気でないだ
けでなく、「身
体的・精神的・
社会的」に満た
されている状態
とされています。

思考があるからだ」と話す。
「うまでも野球好きの個人的な意見であるが」と前置きしたうえで「他のスポーツなぞは、どうしても、身体能力が高い一部の選手がゲームを支配する時間が長くなりがちだ。一方、野球は、ルールとして、打席は必ず全員へ回ってくる。そのため、ローテーションやインフィールドフライなど、

原 実は近年の疫学データでは、「食事」や「運動」以上に、「孤独」が健康に悪影響を及ぼすことが分かってきている。地域のコミュニティ

あるのが良い。青少年の健全
うために、お年寄りが身
支度を整え、外に出る。
コロナ禍でも「こころ」に
康日

「治療」から「予防・つな

す。

例えば、同居しているのに一人で食事をする「孤食」の高齢者は、そうでない人に比べて要介護リスクが1・4倍に上ります。

「があり、そこに行けば誰かがいて、会話が生まれる。そうして「居場所」がある地域の方は、震災復興の中でも非常に前向きで元気でした。」

原 私たちが展開する「ハクジュブラザ」も単にヘルストロインにかかる場所ではなく、地域コミュニティの場として機能しています。

週に何度か通るために口紅を買ったのよと笑顔を見せてくれたお客さまがいました。人に見られる意識、他者の会話を、そして「自分と同じ悩みを持つ人がいる」という安心感。これが心身の健康を支えているのです。

「攻めの予防医学」と産官学の連携

森下 政府としても、高市早苗総理が言及されているように、「攻めの予防医学」へと舵を切ろうという動きがあります。

活動だり心のない層という課題です。

原 おつ健康イベントもともと健康1割の人た残りの9割1人するが例えば、ボトが自分のためだけなく校の寄付った、社会いたインセ

原浩之氏

電解水素水のデモ実施、プレー環境の維持へ